

**放送日** 令和5年7月3日（月）  
**担当者** 経済部長 川村 裕樹

おはようございます。経済部長の川村裕樹です。

令和5年度経済部の共通目標として、経済部は市民生活を支える実行部隊として担うセクションとして位置付ける。そのためにも、職員自らが「稼ぐ」意識を徹底し、財源確保、地域活性化、市民意識の価値向上を図ることが求められる。経済部として、日々の情報収集を怠らず、前例にとらわれない常に一步先を見据えた考え方、アイデア、実行力、スピード感をもって令和5年度の業務にあたる。また、これまで取り組んできた施策において効果検証を速やかに行い、市民生活にとって必要とされる内容に磨き上げていく。さらには、北海道ボールパークFビレッジとの連携を強化し、目に見えるものとして事業構築を図る。といたしました。

本市を取り巻く社会情勢がボールパーク開業にとどまらず、想定を超えるスピードで変化しています。そうした中、いかに未来をイメージし今の施策に落とし込み、トライ&エラーを恐れずに形を作っていくことは、大変重要なことだと改めて認識しています。

ボールパーク開業を契機に、様々な事業者とヒアリングをさせていただける機会が増えました。先日お話しさせていただいた事業者は、国内最高峰のエンターテインメント施設を運営する方たちでした。彼らの共通しているマインドは、今を未来に、未来を今に、現状に満足することなく、社会のトレンド、顧客の声、そしてスタッフがいかに未来を語れるかでした。形になるかどうかは別としても、考えていることをみんなで議論し進めていくことは、当人のスキルアップはもとより、組織全体が高みを目指すチームに成長し、そのチームは周囲も引きつけ、やがては素晴らしいパートナーに出会えるものだと再認識いたしました。

今年度の経済部は、地域経済の活性化につながるよう、そのことが市民の幸せにつながることを信じて、他部局との連携をこれまで以上に強化していきたいと考えています。

どうぞよろしく願いいたします。

**放送日** 令和5年7月5日（水）  
**担当者** 経済部次長 柴 清文

おはようございます。経済部次長兼ボールパーク連携推進室長の柴清文です。

経済部では令和5年度、市民生活を支える実行部隊を担うセクションとしての位置付けを目標に、前例にとらわれない常に一步先を見据えた考え方、アイデア、実行力、スピード感をもって業務にあたることとしており、農政、観光、商工業振興と経済部全体で一丸となって業務を進めてまいります。

さて、これまでもたびたび朝のスピーチにおいても話題とされておりますが、3月に開業いたしましたFビレッジが今後のまちづくりにおいて、重要なコンテンツの一つになることは、職員の皆様も感じているところかと思えます。

Fビレッジは開業して終わりでは決してありません。その価値と機会をどのようにまちづくりへ活かしていくのが大切であり、まさにこれからが試されることとなります。本市にも多くの方々が足を運んでいただけるようになりましたが、おもてなしの心を持ちながら、訪れる方々を温かく迎え入れていければと考えております。

「ボールパークのあるまち」として、初めての取組、新しい取組も進められていきますが、今後も各部署との連携を密にするとともに、市民の皆様は基より、道民そして道外にも、Fビレッジに「夢・希望」を期待するたくさんの方々がいる限り、精一杯取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

最後に少しご紹介ですが、これから北海道においては気候も良くなり、市内でも様々なイベントが始まってきます。7月15日・16日は、北広島駅西口前のひろばにおいて「北の酒まつり」、8月5日・6日においては、今年は場所を変え、市役所駐車場においての「ふるさと祭り」が開催されます。

職員の皆様におかれましても、ご家族も交え、ご参加いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

**放送日** 令和5年7月10日（月）  
**担当者** 水道部長 人見 佳史

おはようございます。水道部長の人見桂史です。

水道部は上下水道事業を所管しており、災害に強い上下水道を目指し、老朽施設の計画的更新と耐震化を進めること、また、経営戦略に基づいた適正な管理により、安定した経営の持続に努めることを事業執行の基本方針としております。

上下水道は普段、使えて当たり前で、使えなくなって初めてその必要性や重要性が認識される施設であるため、そうならないように老朽施設の適切な時期での更新と耐震化の推進、また、赤字経営に陥り、上下水道料金を値上げすることが無いように安定した経営に努めなければなりません。

その中で今日は、安定した経営の持続につながる上下水道事業から見たボールパーク効果についてお話しさせていただきます。

全国的な少子高齢化、人口減は、北広島市も例外ではありません。当然、人口減に伴う上下水道の料金収入も年々減少となる見込みでありました。

そんな状況でのボールパークの開業です。Fビレッジ全体の5月分料金収入は水道で市全体の約2%、下水道で約4%となっており、これは約440世帯に相当する使用料で、経営上非常に大きな効果をもたらしております。ボールパーク開業のおかげで、余程の外的要因が無ければ、当面の間は安定した経営が持続できるものと考えております。

しかしこれは、あくまで他力本願的な効果でありますので、この上に胡坐をかきたくないよう、職員一人一人が更にコストに対する意識を高め、コスト削減や事業効率をアップさせ、更なる安定経営に努めてまいります。

**放送日** 令和5年7月12日（水）  
**担当者** 水道部次長 藤本 正志

おはようございます。水道部次長の藤本正志です。

上下水道事業では、「安心して上下水道を利用できる衛生環境の維持」、「災害に強い上下水道システムの構築」、「経営基盤の強化」を柱に事業を進めています。

本日は、この内、「災害に強いシステムの構築」として水道事業が実施している主な事業についてお話をしたいと思います。

現在、水道事業では、主に供用開始から40年以上が経過し、耐震性がない塩化ビニル管を対象に老朽管更新事業を実施しており、駅周辺の一部を除いた北広島団地や西の里団地の更新をほぼ終了し、今年度は北広島団地の残る北進町1丁目や大曲柏葉2丁目等で、約1.85kmの更新を計画しています。

また、重要給水施設耐震化事業として、令和元年度から輝美町にある輝美配水池を起点に、防災拠点となる市役所庁舎、東部小学校などの指定避難所や医療機関へ接続する配水管を耐震管へと更新する事業を、国の補助金を受け実施しています。

なお、全ての配水池の耐震化を終了しており、水道事業では、常に安全・安心な水を供給できるよう日々努めています。

耐震の話になったので、災害に備えた水の確保について少しお話します。

災害時には、1人1日3ℓを3日分、合計9ℓが必要と言われていています。市販の飲料水の場合は消費期限まで、水道水を保存する場合は、消毒した容器に保存し、常温保管で3日間、冷蔵庫の保管で7～10日間と言われてはいますが、水道水を煮沸してしまうと殺菌用の塩素が抜けてしまうので、煮沸してからの保存はお勧めしません。

**放送日** 令和5年7月19日（水）  
**担当者** 会計室長 高橋 直樹

おはようございます。会計室長の高橋直樹です。

本日のスピーチは、今年度、会計室の重点事項としております窓口キャッシュレス決済の導入について、お話をさせていただきます。

窓口キャッシュレス決済は、市役所庁舎の会計課、戸籍住民課、税務課と西部、大曲、西の里の各出張所の窓口にて、キャッシュレス決済用の端末を接続したセミセルフ「POS」レジを設置し、住民票交付手数料などの手数料を現金での納付に加えて、クレジットカードや電子マネーなどの現金以外での納付が可能となるようにするもので、利便性の向上や公金収納業務の効率化等が図られることを期待して実施するものです。

現在の進捗状況としては、各窓口にてセミセルフレジだけを設置し稼働している状況で、コンビニやスーパーなどと同様に、窓口に来られた市民の方自身がセミセルフレジにて表示された金額の現金を投入する方法で、納付していただいております。

また、現金以外の納付であるキャッシュレス決済については、プロポーザル方式により、キャッシュレス決済を行う事業者の選定を行っているところで、決済事業者の決定後、契約の締結、繰替払にキャッシュレス決済手数料を含めること等の会計規則の改正など事務手続きを進め、秋頃には、セミセルフレジを設置した6か所の窓口においてキャッシュレス決済を開始する予定としております。

なお、このキャッシュレス決済を開始しますと、窓口では、「VISAやJCBなどのクレジットカード」、「Suicaなどの交通系やWAONなどの流通系の電子マネー」、「PayPayなどのQRコードやバーコード決済」が使えるようになり、納付される際の選択肢が増え、住民サービスの向上につながりますが、市税など一部の歳入では、このレジによるキャッシュレス決済はできませんので、ご注意ください。

以上のように、窓口キャッシュレス決済を着実に進め、北広島市DX基本計画におけるキャッシュレス化の推進に取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

**放送日** 令和5年7月24日（月）  
**担当者** 議会事務局長 砂金 和英

おはようございます。議会事務局局長の砂金和英です。

今春は統一地方選挙があり当市でも市議会議員選挙が行われ、22名の議員が選ばれました。議会事務局では新年度の目標の一つに選挙後の議会の円滑な運営と、今後の安定した議会運営が行われるよう取組むこととしたところです。

選挙後の初議会は5月22日に行われ、正副議長選挙、3つの常任委員会の構成、一部事務組合の議会議員の選出など、議会人事に関する日程を中心として進められ、議会事務局では議員の多様な意見を整理し、新たな議会の体制を整えることに努め、各部局の協力を得て議員研修を行うことにより、今後の議会活動が円滑に進められるよう努めてきたところでもあり、目標は概ね達成されたものと捉えております。携わっていただいた全ての皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

さて、市の仕事は、条例の制定や予算をはじめ、議会の議決を経て執行されていく仕組みとなっており、議会での議論の場は、議員22名、単純な計算ですが、議員一人が、およそ市民2600人の多様な意見を担って議会に臨んでいることになります。

議会事務局で勤める機会を得て3年、議場では見ることのできない市民との相談や質問の背景などを出来る限り思い巡らせ、どのような議員へのサポートが望まれているのか、また、今後の議会事務局のあり方をどのように整理していくのか、改めて考えていく一年としたいと考えております。

**放送日** 令和5年7月26日（水）  
**担当者** 監査委員事務局長 安田 寿文

おはようございます。監査委員事務局長の安田寿文です。

職員の皆さんは、日々、市民生活に欠かせない様々な行政サービス業務を行っており、また各種計画に沿ってさまざまな施策を実施し、成果を上げています。しかし、その過程で重要になるのが規則などによる一定のルールに基づいた内部意思決定であり会計規則に基づく事務であります。この規則などに基づき、事務を適正に行うことで、市または職員は市民からの信頼を得ることができています。逆に事務の誤りは、施策の効果だけでなく市全体の信頼を失わせることにもなります。監査委員事務局は市長部局から独立した執行機関として、公正不偏の立場からその事務について、監査・審査などを行うことにより、公正で能率的な行政運営の確保に資するとともに、結果をわかりやすく公表することにより、市政への信頼確保と市民サービスの向上が図られることを目標としています。また事務局は、違法や不適切な事務を単に指摘するだけではなく、事務誤りの原因の分析や指導にも重点を置いて実施しています。人はだれしも、指摘されることは、気持ちの悪いものではありませんが、指摘する側の私たちも同じ思いであります。これから今年度の定例監査が始まりますが、できるだけ指摘を受けないためにも「このぐらいはいいだろう」ではなく「このぐらいはしなければ」という発想を持って日々業務にあたってもらいたいと思います。

**放送日**      **令和5年7月31日（月）**  
**担当者**      **教育部長 吉田 智樹**

おはようございます。教育部長の吉田です。

令和5年も早いもので半分が過ぎようとしています。

本年度の教育委員会の業務につきましては、本市教育ビジョンの「大志をいだき未来を切り拓くまち・きたひろしま」をテーマとした基本方針に基づき、三人の偉人を「目指す人間像」としているところがあります。クラーク博士の名言である大志を懐くから「懐く」、中山久蔵翁からは赤毛米の成功に挑まれた「挑む」、そして、和田郁次郎翁の一村総創建に励まれた「励む」とし、市の目指す都市像となる「希望・成長・交流」を合わせ「希望を懐く・成長に挑む・交流に励む」を「目指す人間像」として学校教育・社会教育を両輪として各種事業を計画的に進めているところです。

本年度は「教育振興基本計画」の3年目の計画推進のため、9つの政策と26の施策により、約100の事務事業を部内7課がそれぞれ推進しています。推進にあたりましては、市民の学びとなる生涯学習をベースとし、家庭教育・学校教育・社会教育の3領域の推進となります。家庭教育では、各学校のPTA活動支援や就学援助等の家庭支援など、学校教育では、義務教育9年間を通して「生きる力」を育む小中一貫教育の推進。社会教育では個の学びとなる生涯学習の推進とともに、学びを結び活す社会教育の推進に取り組んでいるところです。今月の24日開催された庁内研修において、50名以上の職員に皆さんに参加していただき、本市の小中一貫教育の取組や本年度から全市で展開しているコミュニティスクールの取組について研修していただきました。

今後も様々な教育委員会の取組みについて、職員のみならず、市民の皆さんへ積極的に発信していきたいと考えています。

まちづくりは人づくり、教育行政の果たす役割と、まちづくりの根幹を担っている大きな責任を十分に認識しながら、他部局の皆さんとも連携・協働し、きたひろしまの教育の推進に教育委員会職員一丸となって漸進してまいりたいと考えております。